

癌化学療法の副作用対策としてエレンタールゼリー投与の試み

桑名東医療センター NST

発表者； 浅見悠美子

共同演者； 鯉登咲織、鈴木秀郎、須川由理子、出口裕之、小山陽子

最近、私たちは抗がん剤治療中の患者様の栄養支持療法としてエレンタールの投与を行い副作用、特に口内炎の予防として効果が期待できるか検討を始めました。対象症例は2例とまだ少ないですが、エレンタールの投与が抗がん剤治療中の患者様の栄養維持にも貢献しているか検討したので報告します。方法；エレンタール1パックをフレーバーで味付けし、ゼリーにし、抗がん剤治療中の患者様に1日1パック摂取していただく。対象；平成24年7月より開始しました。入院による消化器癌化学療法を行う患者様でご家族の協力が得られ、エレンタールゼリー内服の継続が可能な方を対象としました。検討項目； 体重の推移、 アルブミンの推移、 副作用の有無。

症例1；72歳男性。直腸癌肝転移にて低位前方直腸切除術と肝部分切除を施行。術後補助化学療法としてFOLFOX4を施行。

症例2；69歳男性。局所進行直腸癌による腸閉塞のため、人工肛門造設術施行。術前化学療法としてFOLFOX4+アバスタチンを施行。

結果；フレーバーを加え、ゼリーにすることでエレンタールの摂取は継続できた。2例とも軽度のアルブミン値低下を認め、症例1にグレード1の口内炎の副作用をみとめたが、抗がん剤治療は予定どおり施行できている。